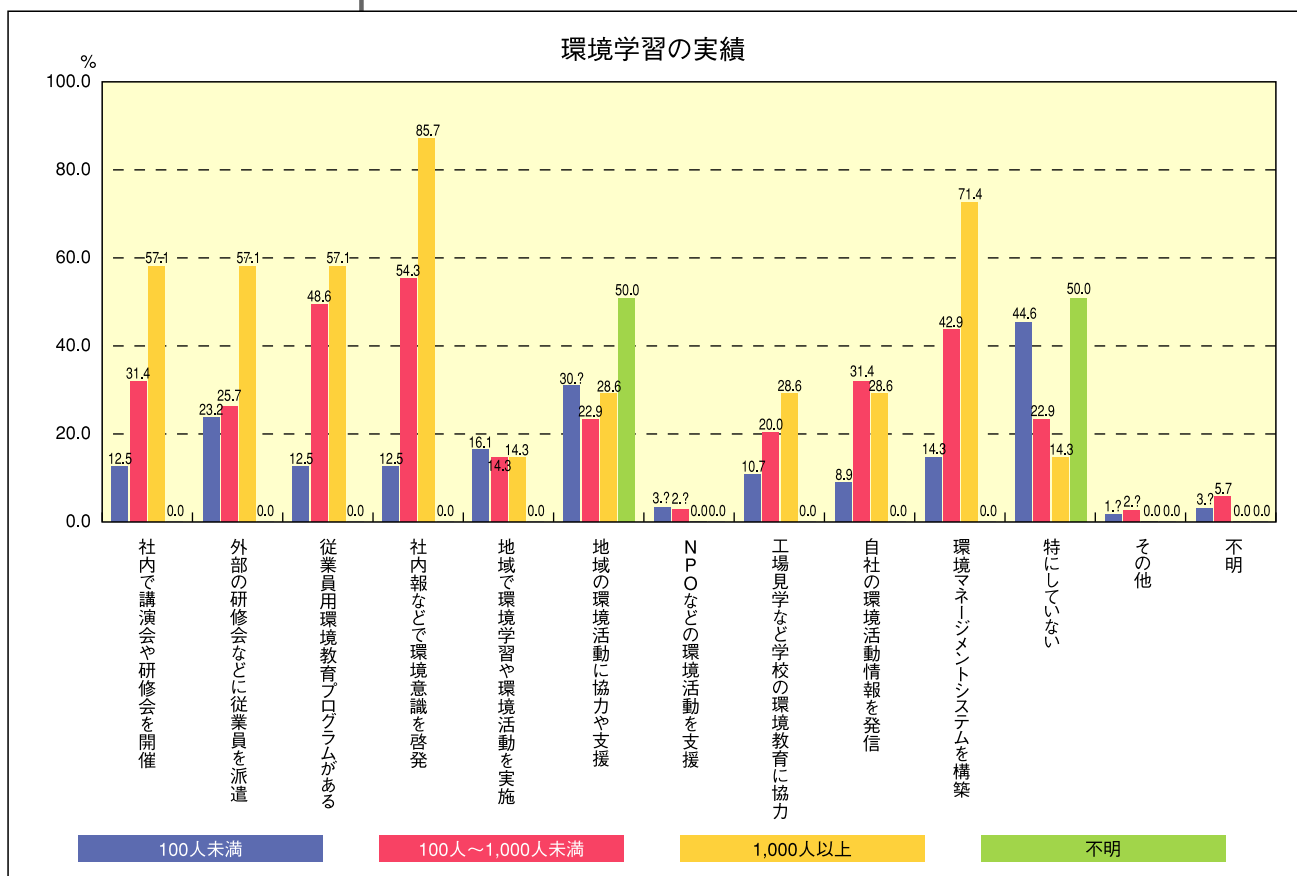


従業員に対する環境学習を実施している事業者では環境意識が高く、「環境を重視した企業・経済活動」を積極的に捉えています。従業員規模の小さい事業者に対する支援が必要です。

環境学習の内容としては、「社内報などで環境意識を啓発」「環境マネジメントシステムを構築」が多くなっています。規模の大きい事業者では、これに加えて、「従業員用環境教育プログラムがある」が多く、「社内で講演会や研修会を開催」、「外部の研修会などに従業員を派遣」などの取組を行ったりしています。



今後の環境学習の実施意向に関しては、規模の大きい事業者ほど積極的です。また、現在環境学習を行っていない事業者では、取り組みたいという意向はあるものの、実際の取組の進展は難しいと考えられています。従業員に対する環境学習は、環境マネジメントシステムの構築によって大きく進展するため、従業員規模の小さい事業者に対する構築支援や啓発は重要です。

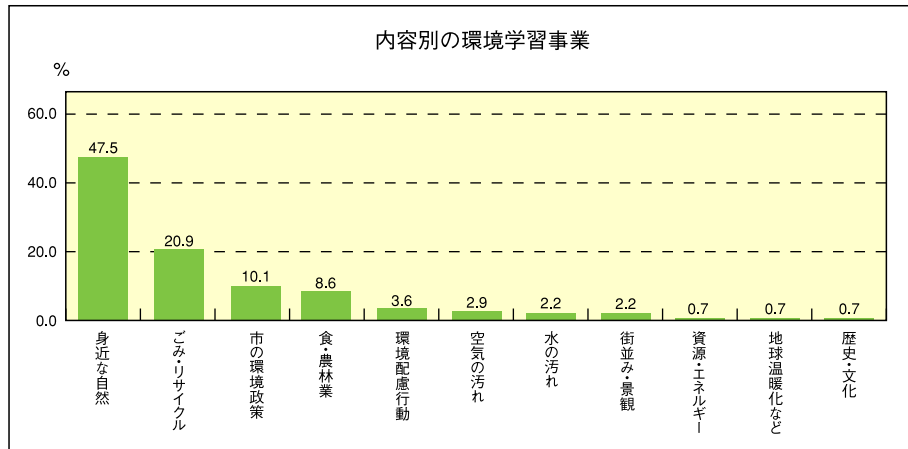
企業を含めた地域の環境学習・環境保全活動のためのネットワークづくりを求める声は多く、適切なネットワークが形成できれば、事業者が地域の環境学習により一層貢献できる可能性があります。

2.行政における現状

(1) 環境学習事業の実施状況

平成13年度に実施された環境学習事業は139件あり、延べ13,459人が参加しました。

その事業内容別比率は、「身近な自然」が半数を占めており、ついで「ごみ・リサイクル」「市の環境政策」「食・農林業」の順になっています。



実施主体別の内訳では、広く関係各課等で実施されていることが分かります。事業を個別に見ると、139事業のうち、65% (91事業, 3,971人) の事業は講座のプログラムの一つとして、計画的に実施していますが、35% (48事業, 9,488人) の事業が一過性でイベント的な性格のものであることから、学習の連続性や関連性を考慮し、計画的な事業を重視した学習機会の提供が必要です。

所 管	主な事業の名称	件数	参加者数
環境企画課 環境学習センター	野外環境教室(自然観察会,水辺教室,スターウォッチング),環境講座,リサイクル講座,環境2001宇都宮	31	3,394
農林振興課	森林ボランティア育成事業,親子森林体験教室	2	375
農政課	自然観察会,農業体験教室,収穫体験	14	3,967
生涯学習センター (旧公民館)	少年ふるさと教室,家庭教育学級,高齢者教室,一般成人教育,地域活動	73	2,526
スポーツ振興課 冒険活動センター	家族ふれあいキャンプ,冒険キャンプ,子どものもりフェスティバル,エンジョイキャンプ,子どものもりのつどい,利用者のための研修会	6	2,276
文化課	自然観察会	2	91
公園緑地課	鈴虫配布会・飼育講習会,ホタル観察会,トンボ観察会,管理作業体験(長岡樹林地,鶴田沼緑地),野鳥観察会,自然観察会,里山保全体験学習,里山樹林回復運動	11	830
	計	139	13,459

(2) 環境学習情報の提供

主に次の情報発信手段を活用し環境学習情報を提供していますが、個々の情報発信元では、情報を一元化していないことから、利用者からは求める情報が分散しており、入手しにくいことも考えられます。

- 環境学習センター
- 生涯学習情報システム マナビス
- うつのみや子ども情報センター
- 市民活動サポートセンター
- 広報うつのみや
- 市ホームページ

(3) 環境学習センターの状況

平成13年4月に環境学習の拠点施設としてオープンし、市民に親しまれる環境学習の場と機会を提供しています。平成13年度の利用者数は33,664人でした。

環境学習を推進する機能として次のものがあります。

情報提供機能	<ul style="list-style-type: none">・再生品の展示・提供（自転車、家具の修繕）・エコシアター・エコショップ（エコマーク商品の展示、紹介）・パソコン、ビデオコーナー、図書コーナー、遊具コーナー・施設見学案内（環境学習センター、リサイクルプラザ）・各種環境学習情報 他
学習機会提供機能	<ul style="list-style-type: none">・環境講座、リサイクル講座・環境セミナー・イベントの開催 他

今後、本市の環境学習を総合的、体系的に推進する上では、市民、学校、地域社会、事業者などの主体の連携が重要です。このため、これらをつなぐ仕組みづくりやコーディネート機能などが環境学習センターの新たな役割として求められています。

3.課題

以上のように、本市では各主体において環境学習が取り組まれており、市としても広く市民を対象とした環境学習を実施していますが、それぞれの環境学習をより効果的に進める上での具体的な問題点も明らかになりました。

さらに、これからの環境学習は、社会経済システムやライフスタイルの変革という新たな視点を取り入れ、幅広くすべての年齢層や団体や事業者などの関心を呼び起こし、一層の理解を深めて、実践につなげていく能力を育成していかなければなりません。

こうした考え方やアンケート調査などにより把握できた本市の現状を踏まえると、今後の環境学習における課題として、①適切な環境情報の整備と提供、②推進の原動力となる人材の育成、③各主体をつなぐ多様な環境学習の場と機会の提供を推進する必要があります。



●環境学習センター